

## 南武 特殊油圧シリンダー製造

# タイに新工場、生産能力倍増へ

### 飛躍カンパニー

タイのバンコク郊外・アマタナコン工業団地に、油圧シリンダーメーカーの南武（東京都大田区）が10年前に設立した現地法人が、今年5月に新工場を建設、本格稼働を開始した。

約6500平方メートルの敷地に建築面積約2500平方メートルの白い工場建物。上部には、ロイヤルブルーの「南武カラー」、の帯に白抜きの「NAMBU」の文字が入っている。現時点での投資額は約2億円、生産能力はこれまでの倍の年間800本に拡大予定。約60人の従業員が働いている。

先月中旬、約4カ月ぶりに現地を訪れた野村和史社長は「改

めて大きくてきれいな建物だな。本当に南武なのかね。タイの発展は想像以上だ」と感慨を抱いたという。

現地代理店の敷地を間借りしての工場進出から今年でちょうど10年。2006年には同団地内の東京都大田区の中小企業向け集合工場「オオタ・テクノ・パーク」に移転し入居第1号となったが、今回の自前工場への移転で卒業も第1号となった。

タイ工場では自動車部品製造の金型用油圧シリンダーとその部品を製造し、同国内のほか東南アジア諸国連合（ASEAN）とインドなどに輸出。タイはインドとの自由貿易協定（FTA）、ASEAN自由貿易地域（AFTA）などが大きな強みとなっており、成長の続くこれ

らの地域には自動車部品各社の進出も続いている。

12年10月のタイの失業率は0.6%（同国家統計局まとめ）と好況が続く。同工場団地も11年秋の洪水など影響がない立地で生産上の不安はなく、「海外に積極展開したのは間違いではなかった」（野村社長）。

長年の操業で現地従業員も根づき、新工場では日本の技術水準と同等のものを作る能力が備わった。シリンダー内面のメッキを行う施設もタイで初めて併設。さらなる品質向上に力を入れた。

中小企業の海外進出では、国内拠点との分担などに難しさを感じる企業もあるかもしれないが、同社では「（製品を設計する）図面代、ロイヤルティー、



南武タイ現地法人の新工場。従来、東京の本社でのみ生産可能だった技術力の高い特殊油圧シリンダーも手がけられるようになった（南武提供）

そして配当をもたらす」（同）と相乗効果を生み出している。

日本の本社では社員を前に毎月、野村社長自ら会社の業績報告会を行っている。タイ工場も映像で随時紹介。「社員の一体感とモチベーションも上がっている」そうだ。

10月、同社は「技術力で海外進出、中小企業成長戦略のモデ

ル」として日本経営士会「ビジネス・イノベーション・アワード2012」会長賞を受賞した。

「元気がない日本だが、中小もどんどん国際的になれる。（海外）子会社の成長で南武自身もアジアとともに伸びている」。野村社長は実感を込めて語った。

（高梨美穂子）